

平成30年第5回弥彦村議会（9月）定例会

議事日程（第2号）

平成30年9月6日（木曜日）午前10時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（10名）

1番	本	多	啓	三	さん	2番	板	倉	恵	一	さん
3番	田	中	満	男	さん	4番	柏	木	文	男	さん
5番	安	達	丈	夫	さん	6番	本	多	隆	峰	さん
7番	小	熊		正	さん	8番	花	井	温	郎	さん
9番	赤	川	幸	子	さん	10番	武	石	雅	之	さん

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村長	小	林	豊	彦	さん	教育長	林		順	一	さん
総務課長	山	岸	喜	一	さん	税務課長	水	澤	正	一	さん
住民課長	伊	藤	和	恵	さん	福祉保健課長	三	富	浩	子	さん
農業振興課長	志	田		馨	さん	観光商工課長	高	橋	信	弘	さん
建設企業課長	丸	山	栄	一	さん	教育課長	小	森	順	一	さん
会計管理者	石	塚		豊	さん	公営競技事務所長	高	島	大	介	さん

職務のため出席した者の職氏名

議会事務局	笹	岡	正	夫		書記	春	日	史	子
-------	---	---	---	---	--	----	---	---	---	---

◎開議の宣告

○議長（武石雅之さん） おはようございます。

これより平成30年第5回弥彦村議会9月定例会を再開いたします。

現在の出席議員は10名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

(午前10時00分)

◎議事日程の報告

○議長（武石雅之さん） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでありますので、ご協力をお願いいたします。

◎一般質問

○議長（武石雅之さん） これより一般質問を行います。

質問時間は、各自30分以内といたします。

持ち時間がなくなる前に質問者から議長に対し、時間延長の申し出がなされ、議長が必要と判断したときは、最大15分の延長を認めることとします。

あらかじめ皆さんにその旨を周知いたします。

なお、時間延長をしない場合、または時間延長が認められた場合においても、持ち時間の残り5分前と2分前に予告ブザーを鳴らしますのでご承知おき願います。

そして、残り時間がゼロになりましたら、終了ブザーを鳴らし、質問をその時点で打ち切りとさせていただきます。

なお、もう一つ、傍聴人の皆さんにお願いをいたします。

本議会の傍聴については、傍聴席入り口に掲示してあるとおり、私語や言論の賛否を表現する発言や拍手等について、弥彦村議会傍聴規則でかたく禁止されております。議事の妨げになっているとの指摘もありますので、静粛に傍聴していただきますようお願いいたします。

◇ 板 倉 恵 一 さん

○議長（武石雅之さん） それでは、通告順に従って、最初に、板倉恵一さんの質問を許します。
2番、板倉さん。

○2番（板倉恵一さん） おはようございます。

トップバッターというのは初めてなもので、大分緊張しておりますが、よろしく申し上げます。
それでは、通告に従いまして質問をしたいというふうに思います。

「理念なき行動は暴挙であり、行動なき理論は空虚である」と上杉謙信は言っております。理念もない、もちろん行動もない。行動も伴わないことはいかがでしょうか。どんなときにも、人

として大切なことをまず考え、裏切らない。人間の欲望と対立する義。その義をもって行動した武将、上杉謙信。最大のライバルであり、川中島の合戦で生死の決戦を5回も戦った武田信玄も、死の間際、遺言で「わしが死んだら、死んで困ったら、越後の上杉を頼れ。困ったことがあったら越後の上杉謙信に相談せよ」と言って亡くなったと言われるくらい信頼されている人物です。

やはり、行動を起こすには、正義と理念を持って起こすものと私は思っております。私は、弥彦村を少しでも住みやすくしたいがために村議会に出ました。小林村政となり、早くも3年半が経過しました。

そこで、今日は、私の一般質問した内容を比べながら、主な事柄で振り返りをしたいと考えます。

私は、厚生産業常任委員会に所属をしておりますので、福祉、観光を中心に行動しております。

弥彦村は、平成27年、3年前に作成した後期高齢者保健福祉計画第6期介護保険事業計画を発表しました。内容は、住民、事業者などと連携協力をして、高齢者の地域生活を支える地域包括システムの構築を目指し推進すると明記されています。

弥彦村では、27年から役場福祉保健課が、10年後の弥彦村を考えようとした取り組みが進められています。村として、特におくれている福祉関連問題で、私は地域包括ケアシステムをどう進めるのかを質問しました。そのときの村長答弁は、第6期計画の中で、団塊の世代が75歳以上となる10年後の平成37年に向け、高齢者が住みなれた地域で自立した生活を送り、各種生活支援サービスが切れ目なく提供できるように進めている。村全体で地域包括ケア推進会議を28年度中に開き、地域包括ケアシステムにつなげたい。

平成37年問題は、日本全国どこの市町村も同じです。弥彦村にとっても大問題であり、これから地域包括ケアシステムが法律として施行されるが、弥彦村はまだ準備が進んでいない。村では認知症予防のための対策を、今後検討する段階であると答弁されていました。当時は担当者2人、それが、今年度、30年度には5人に増員されています。

続いて、教育の質問でしたが、福祉の視点も加味しながら質問しました。

障害のある子供を含む全ての子供に対して、子供一人一人の教育的ニーズに合った、適切な教育的支援を、通常の学級において行うインクルーシブ教育について質問をしました。

保育園は、厚生労働省の管轄になりますが、保育園を教育委員会による支援とし、保育園、小学校、中学校と連携を密にすることで一貫した指導ができ、乳児期における就学前支援として、通常学級で発達障害を抱えた子供たちは、早い段階で適切な対応が重要とされている。教育委員会としては、保育園業務の教育課への移行を検討したと答弁がありましたが、早く対応してもらえることは、本人にとって後々とても有意義なことになります。県内でもこのような指導を行っている市町村は少ないほうです。現在、2年目に入っております。

さて、一般質問とは、私の質問した質問とは関係ありませんが、今年2月22日の村有地売却の入札問題です。

ここは、旧競輪選手宿舍跡地になりますが、新潟市内のコンサルティング会社に落札されまし

た。その後、2月28日に、サイババを信奉する団体が、何かしらの施設を建設する計画の詳細が判明しますが、それまで村は何も知りませんでした。このまま行けば、3月23日に正式契約を終えるところでしたが、とりあえず正式契約の延長を申し入れ、区長会などに説明会を行い、更に、4月23、24日と弥彦地区、矢作地区で住民説明会を行う中で、入札した会社が、住民が反対するなら断念するとして解決いたしました。住民が一体化して起こしたパワーは、今まで見たことはありませんでした。

小林村長を初め、役場職員の方々の努力された結果が今日に至っていると思います。また静かな村に戻ってほっとしているところでもあります。

そのほか、弥彦駅前のホテルについても、電車からおりとみすぼらしいホテル、目の前に建っている光景はとても観光地ではない。一口では言いあらわされる代物ではないと、いろいろなわさがある中、できっこないよとまで言われながらも国の支援で解体工事を行い、現在は足湯つきの広場になっております。

グラウンド跡地にしても、今は、弥彦観光140万人と言われておりますが、神社に参拝後、そのまま観光バスに乗車して帰るといった人が多い観光地であります。それを、おもてなし広場に立ち寄っていただき、そこを拠点に下町を歩いてもらったり、旅館街のお店を見てもらい、彌彦神社に参拝してもらうことで、弥彦温泉の新たな発見をしてもらう核ができたと思います。

更に言うならば、弥彦駅前から弥彦公園を通して、おもてなし広場、そして彌彦神社に通じる動線が、これからできつつあるのではないのでしょうか。

私たちが次世代にバトンタッチしていくためには、若い人から弥彦に移り住んでもらい、子育て支援の充実を図らなければなりません。ただ団地を造成しただけでは弥彦に移り住んではもらえません。弥彦に住んでよかったと言ってもらえる、そのためには、自然や利便性を含む環境づくりだと思います。若い人が仕事を終え、安心して帰ってこられる家庭。ついの住みかとなる魅力ある弥彦村であってほしいと思っております。

単独で生き残れる弥彦村にするためにはどうあるべきかなど、まだまだ喫緊の課題が残っております。未完成の部分も多々あると思います。あつという間の3年半でしたが、村長の公約も既に済んでいるものもあり、まだまだやりたいことも多くあると思いますが、それには財政的裏付けがないと何事もできません。

平成26年度決算歳入は、四捨五入しても39億円、27年度40億円、28年度は44億円です。27年度からは、競輪の売上利益からまた少しずつ一般会計に入るようになりました。29年度は決算が終わっていないのでまだわかりませんが、競輪会計からは入金が予定されており、少しずつ歳入も上向いているようであります。

村の収入を上げるため、一般質問を行いました。国道の誘致、工場誘致、農産物、観光客の増加と、課題は多く残っております。競輪場をもっと開かれたスポットにすべく、家族で遊べる遊園地のように変えながら維持すべきと考えます。

文化会館の大ホールが使えなくなって久しくなります。競輪場も、弥彦本場開催以外の中央広

場はあいております。芝生の中央に移動式の舞台の設置なんかはいかがでしょうか。考えればまだまだアイデアは出てきます。小林村長が初当選したときの、村民から負託された3,204票の重みに応えるには、まだまだと考えます。

そこで伺います。

今までは、私の一般質問を織りまぜての振り返りでありましたが、小林村長となって3年半を経過しました。これらの総括に対し、執行権者として、村長の立場でどう考えるか伺います。

最近村長は、自身の後援会の席で、次期村長選挙の出馬について、皆さんから出馬要請を受けられたそうですが、改めて伺います。3年7カ月前の村長選挙では、3,204票という村民の負託を受けました。村長の任期は31年、来年2月21日までとなります。次期村長選挙への出馬はいかがされるでしょうか。

以上、終わります。

○議長（武石雅之さん） それでは答弁を求めます。

村長。

○村長（小林豊彦さん） ただいまの板倉議員のご質問にお答えします。

まずその前に、3年半の総括をしていただきましてありがとうございます。私自身、板倉議員とのこの議会の中でいろんなご質問あるいはこちらのご指摘をいただきまして、その中で一番今、ありがたいと思って感謝しておりますのは、先ほどの中でおっしゃられましたインクルーシブ教育。多分、弥彦村の行政の中で今まで一番焦点を当ててこなかったのがインクルーシブ教育。それから発達障害をお持ちのお子さんたちへの行政としての対応、これが一番遅れていたのではないかなということに気づかされました。

とりあえずは、今一番具体的に動いておりますのは、特別支援学校。新潟市がもう既に施設が満杯になりましたので、一切弥彦村からの子弟は、お子さんたちは受けられませんと、はっきり市長さん、それから教育委員会からそういうお断りの言葉をいただいておりますので、何とかして対応しなければならない。

ただ、あくまでも今の三条の特別支援学校、地理的に遠いし、冬季は非常に難しいところがありますので、県に対して、米山知事のときからそうですけれども、とにかく、県央の西のほうに、もう一度県立の特別支援学校をつくってほしいというふうに要請してあります。明日、花角知事と県央ブロックの首長、三条、燕、それから加茂、田上、弥彦、それに佐渡の市長さんが加わって、初めてのブロック会議を開催いたしますけれども、それにあらかじめ質問要項、要望事項を出せと言われましたので、私自身、弥彦村としては、特別支援学校を県央西部に何とかして早急に建設していただきたいというのを第1番に挙げました。

これは、残念なことにこれから障害をお持ちのお子さんたち、まだまだこれから出てこられるようですので、何としても行政としてもきっちり対応していきたいというふうに思っております。これは板倉議員のご指摘が非常に大きかったと思いますし、教育長ともどもこれから頑張ってもらいたいというふうに思っております。

それから、ご質問の来年2月に終了します私の任期の後のことをございますけれども、おっしゃられるとおり、9月2日、豊かな弥彦村を創る会の拡大役員会議で、私に対してもう一度、次の選挙戦も出馬するようにと要請をいただきました。非常に重い要請であり、私にとっても真剣に考えざるを得ないというふうに思って、いろいろ本日の議会のこの場まで考えてまいりました。

私この27年に就任しましてから、とりあえず3年半、これまで、駆け足で、本当に駆け足で全速力で突っ走ってきたつもりであります。とりあえずこの3年半で、議員ご指摘のように積み残されてきた喫緊の課題については、一応、何とかめどができたというふうに思っております。弥彦駅前の観光ホテルの処理、それから、おもてなし広場の建設、それからもう一つ、私自身は、一番最初にやらせていただいたのは通学路のLED化でした。村政懇談会でいろんなところへ行くと、とにかく街灯が暗くなって子供たちが帰るとき怖いから何とかしろと要望をたくさんいただきました。何とかしなければならぬと思っておりましたところに、LED化という問題が出てきて、これならばと即決断いたしましてやりました。あれは私にとって一番最初にやらせていただいた事業ですけれども、非常に印象に残っております。

ただ残念なことに、この2月に、先ほどこれも議員からご指摘ございました、サイババというどうしようもない問題が、突然降って湧いたように起こりました。私、村に帰る前に新聞記者をやっておりましたし、いろんなことを経験させていただきました。村長になりましていろんな経験させていただきましたけれども、今から思いますと、私の人生の中で一番難しい問題でした。どうしようもない、解決策が見つからない問題でした。2つ理由があります。

一つは、このサイババ問題の決着には、関係する日本人の方と相手をしてもらわなければならないのがすぐにわかりました。これを決められるのはサイババの本部のあるインドの方たち、その方たちじゃないとこの決定はできないと、いろんな決定は、だけど日本においでにならない。じゃどうするんだというので本当に頭を痛めましたし、苦労しました。

幸い、村民の皆さんの一致した協力で、何とかしてサイババが撤退することができました。関係者の言うとおりに、完全撤退ではなくて、いずれもう一度新潟県に進出するよと言われて聞いています。だけれども、私にとって、申し訳ないけれども弥彦でなければいいんです。とりあえず弥彦ではなくて、弥彦というのは菊の御紋をいただく彌彦神社という、越後一宮がある。これを損なう訳には絶対にいけないというのが、最初から私の信念でございました。

ただ、そのサイババ問題で、これは3月の議会でもお願いしましたように、外部監査調査については全部棚上げにするから副村長を置かせてくださいというふうにもお願いしました。自分でやってみまして2月、1カ月間、もう3月やりましたけれども、とてもではないけれども一人でやっていたら弥彦村政運営できない。私のほとんどの注力をサイババ問題に傾倒しなかったら解決できないということがわかりましたので、お願いしました。で、5月前には終わりましたけれども、その結果、4年目の私のやりたかったことが一切できておりません。

議会でもお約束しましたように、新潟県による行政監査、これはどうしてもやりたかった。これ無駄が、一体県の目から見て、今行政監査という言葉はないそうです。県も市町村も国も全て

対等の関係になるから、監査ということがないんですけれども、どこが無駄であるかというのは、そのノウハウは県は持っております。それを使って弥彦でやってもらいたいと。で、担当の課長とも話がつきまして、やっていいですよということになりましたけれども、あのサイババ問題で全く手つかずになっております。その間に担当課長がかわられてしまいまして、やるならもう一回最初からやり直さなきゃいけないということになっております。残念ながら、多分来年の私の今の任期中には、やることはもう現実問題としてできなくなったというふうに思っています。

ということで、これから一応、弥彦村としてどうしても早急に手をつけないといけないということは、積み残した課題については、何とか対応できたというふうに思っておりますけれども、私自身が一番やりたかった、あるいはやらなければならぬと思っていた、これからの弥彦村を弥彦村として存続させるための基盤づくり、これがはっきり言って全く手つかずになっています。人口減対策、これもはっきり言って手つかずになっております。議会でも何回かご質問を受けました。人口減対策をどうするのかと。私の答弁は、村全体が活性化すれば、必ず人口減対策につながるから、まずそっちをやりたいというふうにお答えしてまいりました。

正直申しますと、これは一種の詭弁です。自分でわかっていたんですけれども、どうしたらいいか、言葉で言うのは簡単です。いろんな手当てを充実して、企業を誘致して、観光のお客さんをたくさん呼んでと言葉で言うのは簡単ですけれども、それは実効性がないんですよ、なかなか見えてこない。

皆さん、議会で答弁するときは、ある程度自分で確信が持てない限り言えなかった。それ以外に先ほど申しましたように、何回も言いますようにサイババ問題といろいろなことがありまして、そっちを優先せざるを得なかった。それが一番の大きな問題の一つ、人口減対策。

それからもう一つは、先ほど申しましたように、弥彦村が弥彦村として存続するためには、どうしても財政の基盤を安定させることが必要です。これ議会でも議員の皆さんから何回かご質問を受けていますけれども、今の弥彦村の財政、これは競輪からの一般会計繰り入れと、それから、ふるさと納税による寄附金の税収増につながっています。これがあるからこそ安定した財政運営ができるし、将来的ないろんな方策を立てる余裕をいただいております。

だけれども、これは皆さんご指摘のとおり、いつまでも今の状態が続くという100%の保証はありません。総務省、今日の新潟日報さんにも出ていましたし、昨日のNHKのニュースでも言っていましたけれども、ふるさと納税についてはもう少し検討しますと。多分次の国会で出てくると思います。それは134億円もふるさと納税で寄附金を集めるような自治体が既に出ておりますし、これは私自身もふるさと納税のそもそもの趣旨とは全く違うというふうに思っています。ただし、現実問題そういうのが出ているので、いずれいろんな規制が出てくるのはこれは避けられない。だけれども、そういうのが出てきたときにも財政的にきっちりして、次の世代につなげるような基盤づくりがこれから必要だというふうに思っております。

人口減対策、それから財政基盤の強化、どうしてもこの2つを、やり残したこの2つを、何とかして自分の手で、公約でございますのでやらせていただきたいということで、その豊かな弥彦

村を創る会の拡大会議で、皆さんの要請をいただきましたので、微力でありますけれども、もう一回、引き続き挑戦させていただきたいというふうに思っています。幸い健康状態も今のところまだ順調でございまして、4月にやった白内障の手術も、昨日お医者さんに診ていただきましたら、きれいに治っていますよということもいただいております。まだまだ皆さんのために働かせていただくことができると思っておりますので、よろしくどうぞお願い申し上げたいと思います。

○議長（武石雅之さん） 再質問、板倉さん。

○2番（板倉恵一さん） 今ほど、村長の人口減対策、それから、弥彦村の財政の基盤づくり、この2点をやり残してある、これからしなければならないというような話もありました。

小林豊彦村長として、今までを振り返り、これからの弥彦村をどうするかが、少し話がありました。これからのことをどうするのか、公約を早目に出すことで、村民が共有できるものでなければならないと考えます。早目に公約を出してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） 今初めて、次期村長選の立候補の決意を述べさせていただきました。私自身の中には、この3年半でいろんな課題が見えておりますし、弥彦村のよさもよくわかりました。しかし、公約となりますと、支援者の方ともう一回相談しながらあるいはもう一回、重いものでございますから、もう一度よく考えて、10月中にはそういうふうな公約を発表させていただきたいと思っておりますけれども、拙速だけは避けたいというふうに思っておりますのでご理解願いたいと思います。

○議長（武石雅之さん） 板倉さん。

○2番（板倉恵一さん） 私が考えるに、よりきめの細かい行政サービスを行うためには、弥彦村は単独でいくべきと私は考えております。今後の4年間は、弥彦村にとって必要な時間と考えます。それとあわせながら、村長は大分お酒が好きだということで、めり張りをつけながらお酒を飲んでいるという話も聞いております。是非、羽目を外したお酒の飲み方は気をつけながら、これから4年間についていかが考えているのでしょうか。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） 思いもしないご質問で戸惑っておりますけれども、前段のほうについては、何でございましたっけ。

〔「きめ細かい」と言う人あり〕

○村長（小林豊彦さん） きめ細かい行政。実はこの間町村長会がありまして、今月に入りまして、そのときに話題になった一つに、総務省が平成の大合併に次ぐ合併について、いよいよ協議会を諮問会議ですかね、つくって動き出したと。どうも総務省が真面目に、真面目というのはおかしいんですけども、本気になってもう一回合併を推進するということです。

新潟県は非常に、もう現在10町村しかありませんけれども、これだけ町村合併があるいは自治体の合併が進んでいるのは、新潟県が突出しているんです。ほかの県についてはまだまだいっぱい村、町があります。それを総務省としては、最初の、要するに財政基盤を強くするためにとい

うことでもう一回やろうとしているんだと思いますけれども、当然それは新潟県が全く関係ないということではないと思いますけれども、私自身この3年半村長をやらせていただいて、弥彦というのはちゃんと自分で生きていける、そういう力を持っている、潜在的なパワーを持っている。そのパワーがあれば、弥彦というのは弥彦として、これからもまだ大丈夫と。

そのための基盤を今申しましたように、どうせこれ8年か10年くらいのスパンをもって総務省やっっていくと思いますけれども、あるいはもっと早いのかな、ちょっとわかりませんが、そのためにも弥彦としては、一番大事なのは財政基盤づくりと人口減対策。人口減というのは、これは後でご質問の中でもありますけれども、弥彦の村長になって一番びっくりしたのは、私が村長に就任したときに弥彦村の人口8,300人台だったと思ったんですね。生まれる赤ちゃんも亡くなる方の算数をやると、平均月10人くらいからオーバーしているんですよ、亡くなる方が。自然増減でいうと1年間で120人、4年間で480人人口が減ることになります。480人で、あつという間に弥彦村の人口は7,000人台に落ち込むだろうという覚悟をしました。

ところが、現在はまだ8,200人台をちゃんとキープしています。こんな村ないですよ、ほかに、弥彦だからあるんです。聖籠町さんのように、ああいう物すごい財源をお持ちの方は別ですけども、そうでないところであれば、弥彦というのは希有な存在だと私は思っております。それだけ弥彦に潜在的に力があると。これをちゃんとやれば弥彦村は十分まだ弥彦村として単独で生きていけると思いますし、それが村民の皆さんに対して一番幸せな道だというふうに確信しております。

それから、後段のほうですけれども、私そんなに無茶苦茶な飲み方はしないつもりですけれども、本当に飲もうと思って腹がすいていると一升は飲みます。ウイスキーだって1本いけます、まだ。ということは、お医者さんに言ったらまだそれだけ飲めるということはパワーがある証拠だから、パワーがなくなったら一升なんて飲めっこないからと言われてはいますが、おっしゃるとおり、議員にご注意いただきましたように、ちゃんと節度を持った飲み方で、健康を損なわないように頑張りたいと思います。

○議長（武石雅之さん） 板倉さん。

○2番（板倉恵一さん） お酒の話出ましたが、私もそうでした。やはり病気になる前は、何かにつけて言い訳をしながら飲んでいるということもあります。是非、その辺を気をつけながら、次期、また是非とも弥彦の村政にご尽力いただきたいということで、質問を終わります。

○議長（武石雅之さん） 以上で、板倉恵一さんの質問を終わります。

◇ 柏木文男さん

○議長（武石雅之さん） 次に、柏木文男さんの質問を許します。

4番、柏木文男さん。

○4番（柏木文男さん） 今月に入り、4月4日には、台風が四国に上陸し、関西方面で風水害で甚大な被害が発生いたしました。今日の未明には、北海道胆振地方で震度6強の地震が発生いた

しました。この自然災害で関西地方では亡くなった方もおります。心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に対してのお見舞いを申し上げ、1日も早い復興を祈念いたしております。

では、質問をさせていただきます。

ハザードマップの再確認をしてという中で質問をさせていただきます。

西日本豪雨は、6月28日から7月8日ごろにかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など、全国的に広い範囲で記録的な台風7号及び梅雨前線等の影響による集中豪雨であります。6月29日に発生した台風7号が、太平洋高気圧の外側を回り込むように、7月4日にかけて東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えて日本海海上に抜けたが、太平洋高気圧の影響で梅雨前線が7月2日から5日ごろに北海道に停滞をして、広範囲の雨量で7月の降水量の平年値を超える大雨となりました。

北海道では、堤防の決壊や氾濫などに伴い、床上・床下浸水、崖崩れ等の被害が発生いたしました。その後、北海道付近にあった梅雨前線が南下し、九州地方では台風の影響による雨が7月3日ごろから降り続いた。特に7月5日に西日本から東日本に停滞した梅雨前線に向かって台風7号がもたらした温かく湿った空気が流れ込むことで、梅雨前線が活発化いたしました。東シナ海からの湿った南東の風と、太平洋高気圧の縁を回る湿った南風が西日本付近に合流し、大量の水蒸気を持たされ、梅雨前線は9日に北上して活動を弱めるまで、日本上空に停滞いたしました。西日本から東日本にかけて、広い範囲で記録的な大雨となりました。

7月6日に長崎、福岡、佐賀の3県に大雨特別警報が発表され、続いて、岡山、鳥取、京都、兵庫と、1日で8府県に大雨特別警報が発表されました。更に、翌7日には岐阜県、8日には高知、愛媛県の2県にも特別警報が発表され、最終的に、最多となる計11府県で大雨特別警報が発表されました。

この豪雨により、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水被害、土砂災害が発生し、死者数が200人を超える甚大な災害となりました。また、全国で上水道や電気、通信といったライフラインに被害が及んだほか、交通障害が広域的に発生いたしました。

平成に入ってから豪雨として、初めての死者数が100人を超えました。昭和にさかのぼって、昭和57年に300人近い死者、行方不明者を出した、長崎大水害以降、最悪の被害となりました。水道の断水被害も、広島県20万7,000戸、愛媛県2万2,000戸、岡山県1万戸など、生活への影響は長期化いたしました。原因の多くは送水管の損傷や浄水場の冠水などで、水道が断水して利用できなくなったためであります。

被災地では、毎日厳しい暑さが続いておりました。東日本大震災後に新設された、災害時健康危機管理支援チーム、DHEATが岡山県で初めて活動したと言われております。

東日本大震災で65歳以上の死者が約6割以上を占めたことから、災害対策基本法を改正して、要支援者の作成を自治体に義務づけました。西日本豪雨で大きな被害が出た岡山、広島、愛媛の3県の市町村の8割以上で、災害発生時に自力避難が困難な高齢者や障害者の災害弱者の個別計

画の作成が完了していないと報道されておりました。

また、政府は更に、要支援者の避難対策を強化するため、自力避難が困難な要支援者の名簿を、本人の同意を得て、民生委員、区長等に提供し、地域の自主防災組織から個別計画の作成を推奨する推進も指示したが、職員のマンパワーが足りない、自主防災組織などが高齢化していて、支援者を見つけることが困難等で、名簿作成と異なり法的義務がなく、個別支援が難しいと報道されておりました。

200人以上の死者が出た今回の豪雨で、自治体が避難指示や勧告を発令して避難を呼びかけたが、逃げおかれて亡くなったり、救助された住民がたくさん出ました。政府は避難情報の意味を明確にするため、避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示をして、危険度を注意報、警報、特別警報と改正いたしました。

今回の豪雨で、岡山、広島、愛媛県では、災害情報の発信に、会員交流サイト、SNS、ツイッターとフェイスブックの両方を活用している自治体がありました。情報を伝える手段が主流となった防災メールは、事前にアドレスを登録した住民しか届かず、防災無線も聞き逃すおそれがあり、ホームページも住民がアクセスしないと最新情報が入手できません。対照的にSNSは情報を瞬時に拡散することができ、知人に情報を知らせることも簡単にできるため、自治体のアカウントを知らない人でも情報が行き渡りやすいため、各地の自治体でSNSの導入が進んでいます。

内閣官房自治体向けSNS活用ガイドブックがございます。今回の豪雨災害で浸水や土砂災害で亡くなった方で、60歳以上が約7割以上を占めております。自力困難な方が自治体の情報が十分に伝わらなかったり、逃げおくれた可能性が十分でございます。また、10歳未満の幼い子供もたくさん亡くなっております。

堤防の決壊で4,000棟以上が浸水した倉敷市真備町地区では、46の方が亡くなり、溺死と見られています。真備町地区の約8割は、住宅の1階部分や平家などの家屋で見つかり、ひとり暮らしで体の不自由なお年寄りでした。

広島市では、平成24年の土砂災害を受けた地区では、教訓を受け、自主防災の取り組みが早目の避難につながり、今回の人的被害はありませんでした。八木、緑井地区では、住民の自主防災連合が、独自に危険箇所や避難経路を調べた防災マップをつくり、各世帯に配り、住民の防災意識を高めました。近傍の川の増水を受け、避難指示が出る前に警戒区域に指定されている世帯に避難を呼びかけ、住民に人的被害はなく、地区連合会では早目の避難が役立ったと言っております。

ため池の決壊により、たくさんの被害が発生いたしました。ため池は農業用水確保を目的に、大半が江戸時代前期につくられ、老朽化で決壊のリスクが高まっていました。今回の豪雨で決壊したため池は、岡山県で54カ所、愛媛県142カ所とされています。

西日本は豪雨でしたが、弥彦村は災害の少ない地域だと村長も言うておりますし、私もそう思っております。がですね、近くに日本一長い大河の信濃川があり、大河津分水路の拡張工事が10

年計画で進められております。この信濃川も、明治29年7月、信濃川の堤防決壊で約300mが決壊し、新潟市関屋まで浸水し、被害面積は180km²の大災害の洪水でした。

ここで、下記の質問をいたします。県内30町村で洪水のハザードマップが作成されております。その中で、作成市町村は9市町村です。弥彦村は、平成29年3月に作成しております。今回の西日本豪雨でたくさんの方が亡くなり、家屋が浸水したり、流失をしております。14年前に三条市が新潟・福島梅雨前線による7.13水害で甚大な被害が出ております。いつ大きな被害が起きるかわからないのが自然災害ではないでしょうか。改めてハザードマップを再確認し、災害に備え、注意喚起を広報等で行う考えはないでしょうか。

ハザードマップの作成・配布市町村で、浸水の可能性のある集落に対して説明会をする報道がされてきました。弥彦村は村民に対して配布だけであり、今後説明会を開催するかお聞きいたします。

災害情報の発信に、会員制交流事業サイト、SNSのツイッターとフェイスブックに自治体向けSNS活用ガイドブックがあります。今後SNS等の取り組みを考えているかお聞きいたします。

昭和50年代、弥彦地内矢楯の人喰川で水害があり、周辺の住宅が上流から流れてきた流木で橋を塞ぎ、床上浸水が発生しました。弥彦山山系は土石流危険渓流及び砂防指定地、そして急傾斜危険区域がございます。管理は県だと思えますけれども、もう一度、管理は県か村か、どちらであるかお聞きしたいと思います。

村内にも砂防ダム麓一区及びため池麓二区がございます。また、黒滝の砂防ダムは老朽化が進んでおります。ダムの下には住宅があります。砂防ダムの新設計画を伺います。

要支援者の避難対策を強化するため、自力避難が困難な要支援者の名簿を、本人の同意を得て民生委員、区長等に提供し、避難行動要支援者の名簿を作成しましたが、災害弱者の個別計画について、配付関係者にどのような説明を行ったかお聞きします。

最後になりますが、7月7日、自主防災シンポジウムが役場大ホールで開催されました。出席者数、講演内容をお聞きしたいと思います。

以上であります。

○議長（武石雅之さん） 答弁を求めます。

村長。

○村長（小林豊彦さん） 柏木議員のご質問にお答えいたします。

個別のご質問にお答えする前に、昨日の冒頭の開会、招集のご挨拶のときに申し上げましたけれども、やはりどこの首長さんと全国の首長さんとお会いしても、一番心配なのが自然災害による人命が亡くなられること、これがもう最大の懸案事項というか心配事項であるということを言っておられます。私もそのとおりだと思っておりますし、幸いなことに弥彦村は、これまで大きな自然災害による被害は出てまいりませんでした。だけれども、これはあくまでも、たかだか2,000年の有史以来の歴史の中でそういう記録がなかったというだけであって、それ以前どうい

うふうであったか全くわかっておりません。

全て、今大きな災害ができていますのは、2,000年以来だとか、初めてだとか、そういう災害になっております。それに気象条件が変わっておりますので、弥彦村も自然災害のないいいところであると、これは一番ありがたいんですけども、ただ安住することは絶対にできないというふうに思っておりますし、これはどなたが行政のトップになろうと変わってはいけないし、変わらないことだというふうに思っています。その点をまずご了解願いたいと思います。

ハザードマップの再確認についてのご質問ですが、ハザードマップの最新版については、平成29年3月に、弥彦村洪水・土砂災害ハザードマップを作成し、4月25日発行の広報やひこと一緒に全戸に配布させていただきました。内容につきましては、大河津分水路が想定し得る最大規模の降雨により氾濫した場合の浸水が想定される区域と、水深、避難施設などを表示したものとなっております。同時発行の広報やひこの紙面において、その内容についての説明を掲載しております。

災害に備えるための広報については、弥彦村防災訓練などの折に周知を図ってまいりましたが、昨今は、一晩で一月分の雨が降るなど、想定を遥かに超えた雨量により、日本全国で甚大な被害が発生しております。そのような状況を想定しますと、ハザードマップの説明会については、今のところは予定しておりませんが、今後、新しいハザードマップに基づき、大河津分水が氾濫した場合も想定した避難方法の周知も、具体的に考えていかなければならないところであります。

次に、ソーシャルネットワーキングサービス、いわゆるSNSの関係でございますが、簡便で、多くの方が利用し、即時性があり、また、地域ごとにそれぞれに関する情報についても発信できることから、災害対応における情報伝達ツールとして活用することは効果的であると考えております。

SNSとはちょっと違いますが、昨年5月1日より国土交通省において、信濃川が氾濫危険水位を超えて洪水のおそれが出た場合、弥彦村全域に緊急速報を配信するエリアメールが開始されております。高齢者など、SNSの情報に接しない人への速やかな伝達も課題ではありますが、あらゆる手段で迅速な情報発信の体制を整備する必要があると考え、活用に向け検討を行ってまいります。

土石流危険渓流及び砂防指定地の管理についてのご質問ですが、具体的には、土石流危険渓流の普通河川の管理は弥彦村、砂防堰堤の管理は新潟県となっております。また、砂防ダムの新設計画につきましては、三条地域振興局に確認したところ、砂防新設の計画は予定されていないとのことであります。

議員ご指摘のとおり、これも前から議会で申し上げておりますけれども、砂防ダム、あるいは堰堤ダムで一番心配だったのは麓一区の黒滝ダムでございますけれども、4年間お願いして、ようやく今年になって3,000万円の事業費予算をつけていただきました。何とかして災害の起きる前にそれができるようにというふうに思っております。

ただ、弥彦村に砂防ダム、相当の箇所あります。多分、私が子供のころですから、昭和30年代

につくったのがほとんどだと思いますし、それも今、現時点でほとんど堰堤の上まで土砂が堆積しております。それが大丈夫かどうかというのは、私自身が不安がありますので、もう一回問い合わせたいと思いますし、昨年の大雨が降ったとき、矢川がもう少しでオーバーフローといますか、水を超えるような大雨のときに弥彦村全域を私自身回りましたけれども、そのうちちょっと心配だったのが、上泉地区の水量が、これがほかの地区に比べてちょっと量が実質的に違いましたので、これは既に三条地域振興局の方に、あれはどうなっていますか、ちゃんともう一回調べていただけないかということをお願いしてあります。弥彦村としては、常にそういった細心の注意を払いながら対応してまいりたいと思っております。

避難行動要支援者名簿については、5月の地域防災連絡会議において、区長、町内会長に、避難行動要支援者避難支援計画をお示しし、提供される情報及び取り扱いについて説明させていただいたところでございます。

最後に、7月7日に開催された自主防災シンポジウムについてですが、これは、自主防災組織の役員を対象として、予期せぬ大規模災害に備えるため、常日ごろから自主防災組織として、地域住民とどのような話し合い、また訓練を行っておくべきなのかを考えていただき、これからの組織活動の参考になればと、災害ボランティア団体及び長岡市内の自主防災会から2名の講師を招いて、講演及び事例発表を行っていただきました。会場の都合もあり、対象を自主防災組織役員に限定させていただき、各組織から3名程度参加いただくよう依頼いたしましたが、残念ながら参加できなかった組織もあり、席に余裕ができたことから、急遽、職員からも参加を募り、当日は61名の参加となりました。

シンポジウムの内容につきましては、災害発生時の緊急対応など、非常に意義あるものであったと報告を受けております。

以上でございます。

○議長（武石雅之さん） 柏木さん。

○4番（柏木文男さん） ハザードマップの配布をして、その後、ただ私にそれを配っただけかなというようなことしか思われません。やはり一般住民は、自分が災害に遭って初めてその大変さを知る訳でありますので、やはり私は、防災の日を弥彦村設けてPRをしております。そのときにでも、是非、来た人だけでも、私はやはりその見方とか考え方を説明して、その人がまた地元に戻って話ができれば、スムーズに避難ができるかなと私は思っておりますので、是非、そういう方向で検討をしていただきたいと思いますと思っております。

それと、倉敷の真備町でありますけれども、4,000棟以上が浸水をして亡くなったと、46人の人が亡くなったという報道がされておりますし、そして、一番深いところの浸水深が5mに達したということが言われています。それが行政がつくったハザードマップと大体一致していたという報道がされております。私がちょっと心配だったのが、この新しくつくってもらった中で、大河津分水の想定最大規模を見ますと、やはり5mなんですね。そうした場合、2階に逃げたとしても浸水してしまう。同じことが、この真備町と同じようになるのかなということが心配で、今

回質問させてもらいました。

そこで、村長、私が言うとお金がないから後ですよということをよく言われますが、やはり一番は人命だと私は思っておりますので、そのない金を、知恵を出すのが首長だと、私は思っております。そういう中で、早目の避難というのが私はできると思っています。それは、今、行政無線がありますけれども、大雨の日、台風の日ですと、私何度も言っているんですけども、私の家もほとんど聞こえません。そうすると、どういう情報が流れているのかということが心配なんですけれども、それで今回いい例が先回、湯沢町がありました。消防団の方が陳情を出しまして、全世帯に防災無線の設置をしたということが新聞に報道されております。村民に早く避難をさせるために、やはり防災無線も大変ですけども、防災ラジオの設置を私は要望しておきたいと思いますがどうでしょうか。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） お答え申し上げます。

議員ご指摘のとおり、専門家からお聞きしますと、50cmの水が押し寄せてきた場合、そのとき一緒に外にいたら助からないそうです。亡くなるそうです。たった50cmです。

今の弥彦村は、私が村長になって非常に理解できましたのは、弥彦村の村民の皆さん、これまで大きな水害はありません。水害は多分西川だと、私村政懇談会でもよく聞かれるんですけども、西川よりうち低いんでどうなりますかと言うから、西川は大丈夫です、何故ならば大河津分水のところの水門さえ閉じてしまえば水は来ませんから。

弥彦村にとって一番問題なのは、人命に関してですけども、一番問題なのは大河津分水のところから寺泊の堤が切れること。これが一番怖いんで、これがなった場合を想定して水害のハザードマップをつくっております。弥彦役場前は1mの水深になりますというのが出ておまして、けどそれは、自分たちがかつてこの100年、あるいは200年、100年ですかね、明治29年のあのときから100年ですから、100年経験したことのない、もう世代が3代ぐらいわわっています。とてもじゃないけれどもそういう危機意識がないし、持ってくださいと申し上げても難しい。

じゃ、実際に出たときどうするか。50cmなんて車は動かない、ボートは何もない、対応しようがない。たった一つ対応性があるのは、議員ご指摘のとおり早目の避難なんです。早目の避難しかない。私ら首長はいつも肝に銘じておく言葉の一つに「三振は許されるけれども、見逃しは絶対に許されない」という言葉があります。要するに、早目に避難してくださいと言って、結果的に何もなくて非難を受けてもそれは許されると。

ただし、まだ大丈夫だろうと避難勧告、指示を出さなくて、結果的に住民の方が亡くなられたら、これはもう絶対に許されないことです。これはずっと私の村長の机の右に張ってあります、絶えず忘れないように。私自身一番大事なのは、早目の避難をしていただくこと。そのためには、議員ご指摘のとおり、情報を早く、ちゃんと伝達するよにということになります。先ほど苦言をいただきましたけれども、金がないんでなかなかできませんねということによってまいりましたけれども、実は先般、国から何とかしろという指摘をいただきました。

もうやるつもりです。やらざるを得ない。全戸にはまだ無理なので、財政的に今そんなに逼迫した状態はないですから何とかしてもう作業を始めてもらっています、担当者から。できるだけ早くやる。決めたなら専決させていただいて、できるだけ早い機会あるいは金額が大きくなれば臨時議会を開催させていただいてやろうと思っています。ああ、しまった、もうちょっと早くやっておけばよかったということはもう許されませんので、そういう方向でも進めておりますので、ご理解賜りたいと思います。

○議長（武石雅之さん） 4番、柏木さん。

○4番（柏木文男さん） ちょっと試算させてもらいまして、2,700世帯ありますので、今1万2,000円程度かな、先回のとき1万2,000円くらいと言っていましたので、3,000万円くらいかかるという費用が私の中で出てきております。その中で配布してあるところもありますので、もっと少なくなるかなと私は思っております。

それと、災害用の非常食でございますけれども、非常食はどこに保管されているのか。それと、保管の備蓄はどういう種類があるのかわかりましたらお願いしたいと思います。

○議長（武石雅之さん） 総務課長。

○総務課長（山岸喜一さん） ちょっと急な質問でございましたので、今資料をたしか持ってきているはずですので、ちょっと探させていただきます。すみません。

〔「じゃ、その前に追加でよろしいでしょうか」と言う人あり〕

○議長（武石雅之さん） はい。

○4番（柏木文男さん） それと、災害状況を見ておられますと、水害そして地震を見ておられますと、やはり避難した中で一番大変なのがトイレの問題かなと、私は思っております。水洗トイレがほとんどですので、そうしましたら断水してしまうとトイレが使えなくなってしまう。そうしてしまうと1週間ぐらい使えない事態が出てくるんじゃないか。そういうとき、簡易トイレもございます。弥彦の伊ワツキさんから私もらったことがあります、ヒルクライムのときもらった記憶がありますけれども。ちょっと少し延ばして、延長時間。すみません。

国が普及を図っているのは、マンホールトイレなんですね。そのマンホールトイレを是非研究していただきまして、いざ災害があったときにマンホールトイレを利用できれば、そのまま流せるんじゃないかと私は思っていますが、生ものがありますので、それはまた皆さんから研究してもらうような形が出てくると思うんですけれども、是非ともこの災害時の、ないほうがいいんですけれども、あったときに使えるような体制づくりも、私は必要ではないかなと思っております。どうでしょうか。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） トイレについて先にお答えいたします。

私新聞社に勤めていたとき、最後、関連会社の社長をやらされておりました、オフィスが神田にありました。関東大震災のような震災が起こったときにどうしようかという検討をしました。一番問題はトイレでした。つるはしとスコップとテントを買えと。いざとなったら皇居へ持って

いって穴掘ってやるしかないねというところまで、冗談だけれども本気でやるつもりでおいりました。ないんですよ。

弥彦村の場合も、正直申しまして、トイレまではちょっと、まだそこまで頭が至っておりませんでしたが、当然、大きな問題になることは間違いありませんし、三条さん、それから見附さん、いろんな災害に遭われたところがございますので、そこにお聞きしながら、一体どういうふうに対応されたのかを含めまして検討しなければならないという課題だと思っております。

○議長（武石雅之さん） 総務課長。

○総務課長（山岸喜一さん） 先ほどの災害対策の備蓄品の質問でございますけれども、今、弥彦村では、災害時に200人分の方の備蓄品について、200人の方が3日間の分で用意しております。

内容につきましては、毛布、それから飲料水、これはペットボトルになりますけれども、それから非常食、アルファ米等でございます。飲料水は5年間、保存期間ですね、それから非常食も5年間の保存期間になっております。毛布については1人2枚ですので400枚、それから飲料水は、1人1日1ℓ計算で3日分、全部で現在500mlのペットボトルを1,800本を用意してございます。それから、非常食につきましても3日分、9食分を確保してありまして、これが全部で1,800食で用意してございます。金額で計算しますと約250万円くらいの備蓄をしております。

備蓄する場所につきましては、山崎にあります旧KDDでしたか、から無償で受けました電波塔がございまして、その下の建物、そちらを利用して、そちらに備蓄してございます。また、学校、小・中学校ですね、そちらのほうにも備蓄品を置いてございます。

飲み物、食べ物については5年間ですので、その期限が切れそうになりましたときは、防災訓練などで参加者にお渡ししたりとか、そういったことで消費切れ以前に処分してございます。で、新しいものを毎年備蓄している状況でございます。

以上です。

○議長（武石雅之さん） 柏木さん。

○4番（柏木文男さん） 思ったより私、少なかったかなという形を受けた訳ですけども、また、この200人分が適当かというのは、ちょっと私もわかりませんが、災害がないほうが私は一番いいかなと思っております。

それと、先ほどのトイレの話であります、是非、研究をしていただいて、いざ災害が起こったときに利用できる体制づくりをしていただきたいなと思っております。

それと私、砂防ダムの話をさせていただきました。村長も昭和30年代につくったのが主じゃないかということを言われております。私もテレビ等で見ていますと、土石流のあの流れを見た場合、砂防ダムが決壊した場合、相当な被害が弥彦は出ると思うんです。何でかという、やはりほかの地区と比べて急峻の山でありますので、そのスピードというところが想像される訳です。

今年はまだや、冬に重い雪が降りまして、湿った雪が降りまして、枝が相当折れているという形があると思うんです。そういうのが重なって、水害等があった場合、それが全部下流の地域

に流れてきますので、そうした場合、相当の被害に遭うのではないかなと思っております。土石流危険区域ですと10カ所あるんですね、麓一区から上泉まで、指定されているのが。そして砂防指定が7カ所、私確認をしてきたんですけれども、やはり県の管轄が砂防ダムだと、土石流は弥彦村だという形がありますので、土石流の関係を、是非職員から砂防ダムを確認して、どういう状態か、まず確認をしていただきたいと思いますと思うんですけれども、どうでしょうか。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） 先ほども申しましたように、三条地域振興局の担当部長さんとはそういう話をしておりまして、ただ、土石流の危険地域については私も全部見ております。とりあえず、麓一区の黒滝のところ以外は、直ちに人命に危険が及ぶようなところはないので、一応あそこを最重点にやっておりますけれども、ただ、規模については全く想定できない規模が出てくると、これまでの規模から想定して人命に対して大丈夫だよという結果が出ているんだと思いますけれども、そうじゃないことが多々起きている、既に現実問題になっていますので。もう一度県にお願いしながらやっていきたいと思います。村だけではとても無理なんで、それは県とお願いしてやっていこうと思っています。

○議長（武石雅之さん） 柏木さん。

○4番（柏木文男さん） 是非、新潟県と協力しながら、そのお願いをしたいと思います。やっぱり一番大事なのは人命でございますので、事故が起こってからでは遅いと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（武石雅之さん） 以上で柏木文男さんの質問を終わります。

ここで、しばらく休憩といたします。

再開は11時30分とします。

(午前11時21分)

○議長（武石雅之さん） 再開いたします。

(午前11時30分)

◇ 田 中 満 男 さん

○議長（武石雅之さん） 次に、田中満男さんの質問を許します。

3番、田中満男さん。

○3番（田中満男さん） 通告に従いまして、一般質問をいたします。

今年7月28日から31日の4日間で弥彦記念競輪が開催されました。私自身も4日間通い、わずかですが売り上げに協力してきました。

売り上げ目標は当初予算では52億円の予定でしたが、強気に3億円増の55億円を見込み、臨みました。

結果は47億円余りの売上高で、見込み額より8億円と大幅に減少する結果となりました。

今回は西日本豪雨災害や台風の影響があったのも確かですが、近年では毎年のように自然災害の影響を受けています。今回の西日本豪雨災害では、私の親戚・知人も大きな被害を受けています。

車券売り上げ状況が以前に比べて、ご存じのとおり非常に多様化してきています。

前は、記念競輪ともなると、下の駐車場はもちろん、第8・第9駐車場、そしてその上の駐車場まで満杯になり、私の自宅前の道路まで駐車していました。それだけ来場者数が多かった訳です。今は来場者数が非常に減少しております。

幸いに、現在は電話投票、ネット投票、場外売り上げ、場内売り上げ等があります。それらのそれぞれの現状、推移はどうか伺います。

先ほど申し上げたとおり、現状は来場者が非常に減ってきております。今回は大規模改修工事が予定され、多額な投資が計画されております。各現況、先の見通し等を調査し、調査結果を分析・検討し、改修工事及び今後の計画・展望に必ず反映しなければならないと思いますが、村長はどう思うのか伺いたい。

高齢者支援センター利用状況及び過去5年間の売り上げ実績と現状の売り上げ状況を伺いたい。

過去には、利用時間を延長したりして利用者増加につなげようとしたが、利用者は常連客がほとんどで、通常時間内に利用されている方が延長時間に利用するケースが多くて、利用者増加にはつながらなかった経緯があります。

しかし、弥彦村にとって貴重で有益な温泉福祉施設であり、今後の利用者増加については検討、工夫、努力が必要と思うが、どうか伺いたい。

しかし、現在の無料券配付のあり方については疑問に思います。無料利用券の配付枚数と有効期間、そしてその利用状況も伺いたい。

私は無料利用券、回数券1枚の配付か、巡回バスやひこ号、きららん号の利用券、またはタクシー利用補助券を配付対象者個別に選択していただいたほうがよいのではないと思うが、村長の所見を伺います。予算の都合上、回数券は3,000円相当分だと思いますが、同じ金額でそれも見せかけではない利用券金額を示していただきたい。

以上でございます。

○議長（武石雅之さん） 答弁を求めます。

村長。

○村長（小林豊彦さん） 田中議員のご質問にお答えいたします。

1点目の弥彦記念競輪が売り上げ目標に届かなかったことについてのご質問ですが、議員ご指摘のとおり、当初予算52億円に対し、マスコミ等へ発表した売り上げ目標は55億円と増額いたしました。このことは、特別に変わったことでもなく、ほかの競輪施行者もよく行うことでございますが、目標を高目に設定し、関係者全員の士気を高めるという慣例がございます。それに従ったものでございまして、このたびの弥彦記念競輪も同様に高目の目標とさせていただきます。

結果はこれも議員ご指摘のとおり、47億3,581万円と目標には約5億円及びませんでした。

ただ、議員もご質問の中で言うておられますけれども、この日の状況を考えていただきますと、台風12号、これが日本列島を直撃いたしました。その結果、2日目だったと思いますけれども、本場の車券の発売が広島・松山・四日市3場と、サテライトの発売場が2場、一時閉鎖いたしました。発売できませんでした。それにもかかわらず47億3,581万円という金額を達成することができました。

ちなみに、弥彦記念の1週間前に行われました福井市にあります福井記念では45億6,000万円、2億円近く少ない金額となっています。この弥彦の後に、1週間後に行われました松戸市にあります松戸記念では44億3,000万円と更に下がっております。両方とも大きな週でありまして、本来ならば福井も松戸も弥彦より大きくなるというふうに見られておりましたけれども減っております。理由は猛暑のためということでございました。実を申し上げますと、去年の記念についても弥彦記念は福井よりも松戸よりも売り上げは上でございました。なぜそうなのか。

余り私、職員のことを褒めませんが、これは実は、所長を初め職員の皆さんが熱心に営業活動をやってきていただいた結果だと思っています。私自身村長になりまして43場中21場に伺いました。それでわかったことがあります。それは、弥彦競輪、安達村長時代に280億円でしたかね、物すごい売り上げを記録しています。それは全盛期じゃなかったと思いますけれども。伺いましたら、安達村長みずからが全国の競輪場を行脚されて各本場の方に弥彦をよろしく願いますと、ずっと営業活動やっただけでなくなったそうです。

私自身も21場行っておりますけれども、そういう競輪場の職員の皆さんが絶えず常日ごろ、全国の本場の皆さんのところへ伺って弥彦競輪をよろしく願いますという人間関係というか、信頼関係が基盤があったからこそ、この悪条件の中で、この47億円という売り上げが達成できたと思っています。

弥彦の大神様のご加護ももちろんあります。台風12号、当初の進路予想では列島の中央部を横断して日本海へ抜けると、その場合には弥彦は本場開催1日休まざるを得ないということを感じました。

そのときもしそうなおれば47億円どころか相当な落ち込みで、更に一番怖いのはコスト要因で利益が出なかったと思っています。それが途中から左に直角に折れて全く想定できないような進路でした。これは弥彦の大神様のおかげだと思いますけれども、実際の売り上げについては、弥彦の職員がよくやってくれたのおかげだというふうに思っておりますので、ご理解いただきたいと思っています。

また、車券の発売方法が多様化してきておるとのご指摘ですが、今回の弥彦記念では本場売り上げが前年度比86.2%、場外売り上げが前年度比88.8%、インターネット投票を含む電話投票売り上げが前年度比は100.6%と、インターネット投票のみが伸びている状況であり、これは弥彦記念に限ったことではなく全国の競輪場の売り上げにおいても同じような現状となっております。

このような売り上げ状況の全体的な動向については、競輪を統括する団体であるJKA等でも

調査しておりますし、監督官庁である経済産業省を初め、関係者一丸となって競輪事業の継続的発展を目指し、より一層お客様目線に立ったサービスを実施するべく各種施策を検討しているところでございます。

また、来場者数が以前に比べ減っていることについてですが、これはまさに現在全競輪場に向けられている課題であります。競輪収益が安定していない時期は積極的な投資は控えがちになり、全国的に老朽化が進んだ施設が目立つようになり、弥彦競輪も同じ状況でございました。

新規顧客の獲得という目標を以前より掲げておりますが、老朽化した施設では新しいお客様を迎え入れるにはふさわしいとは言えません。ミッドナイト競輪が好調な今、お客様への還元という意味を含めて計画的に施設改修を行っていき、またお客様に喜んでいただけるようなイベント等も実施し、本場入場者数の増加や売り上げの向上につなげていきたいと考えております。

次に、2点目の高齢者総合生活支援センターの利用状況及び売り上げ状況についての質問でございますが、まず利用者数を申し上げますと、平成25年度が2万3,369人、26年度が2万3,974人、27年度が2万4,535人、28年度が2万5,955人、29年度が2万9,979人で、平成25年度と29年度を比較しますと6,610人ふえております。

一方、売り上げ状況につきましては、平成25年度が376万5,960円、26年度が374万3,240円、27年度が398万8,680円、28年度が339万4,720円、29年度が277万8,820円となっており、平成25年度と29年度を比較しますと98万7,140円の減となっております。

これらの増減要因といたしましては、平成28年度から敬老会のお祝いの品の無料入浴券を10枚から30枚にふやしたことが大きく影響しており、利用者は増加し、利用料は減少している状況でございます。

しかし、1日平均約100人と大変大勢の方からご利用いただき、支援センターの目的である住民の健康増進に大きく寄与していると思っております。

今後の利用者増加については、健康増進を主眼として広く住民からご利用いただきたいと考えております。現在、自主的に温泉を利用して体操している村民のグループがありますが、このような支援センターを利用した自主的な活動が村内に広がっていくように工夫してまいりたいと考えております。

また、支援センターの和室を常時開放し、飲食もできるようにしておりますので、集いの場としての更なる利用促進も図ってまいりたいと思います。

○議長（武石雅之さん） 田中さん。

○3番（田中満男さん） 競輪場の施設改修ですが、入場者が大分減っているのは現実でおわかりだと思いますけれども、観客席の、よくすることはよくして、席数をそんなによくしなくてもいいのではないかと思います。幸い競輪場の大規模改修工事の入札・発注はしていない時期だと思っておりますが、この調査の結果を反映し、設計変更などをしてこれらの入札に反映できるのかどうか伺います。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） その質問については私からお答えさせていただきます。

今回の大規模改修は来年7月の記念競輪の開催時には完成するという事を最大の目標にやっております。実際の工事は本場開催が終了する11月になると思いますので、今から調査をやっても間に合いません。私どもは常日ごろ、私自身じゃありませんけれども、競輪事務所に携わる皆さんはそういった知識をいろいろなところで仕入れて知っております。改めてやる必要は、私はないというふうに判断しております。したがって、来年の7月の記念競輪にあわせてやってまいりたいと思います。

もう一つ、これは先の話で余り確約というふうなこともできませんけれども、記念競輪、全部その大規模改修終わった段階で寛仁親王牌をその完成記念としてお願いすることが可能であるということが最近わかりましたので、それはいずれ、1回はとにかく、5年に一遍でいいから寛仁親王もう一回おいでいただけますかという話をしていましたけれども、競輪の開催地の決定については全部JKAさんがお決めになってということになっていました。

その中で、これは所長のほうがよく知っておりますけれども、寛仁親王牌、それから高松宮杯、この皇室が関係する2つの競技についてはそれから外そうというふうなことで動いているというふうに聞いております。それが、もしそうであるならば、弥彦村はもし大きな競輪については全く芽がないんですけれども、条件的に合わなくなってしまうけれども、可能性が出てきます。それに合わせてやっていけばいいなというふうに思っております。

○議長（武石雅之さん） 田中さん。

○3番（田中満男さん） 現在の観客の椅子数というか座席数、この設計段階はどのように、ふえるのか減るのか、また何席ぐらいになるのか、それによってまた価格等も変わってくるかと思うんですけれどもいかがでしょうか。

○議長（武石雅之さん） 公営競技事務所長。

○公営競技事務所長（高島大介さん） ただいまのご質問にお答えさせていただきます。

これから建設しようとしている建物につきましては、固定した椅子というのは今現在考えておりません。フリースペースということになるかと思えます。この新しい建物につきましては、前に懸念されておりました記者席、それから来賓席ということでそのプレハブ工事、これに係る経費をなくそうということでございまして、常設した形で新設をしようということでございます。

今設計のほうを進めているところでございますけれども、この後行われます特別委員会のほうでもお示しをさせていただきたいと思っておりましたけれども、当初、記者席と来賓席というふうな形で進めておりましたけれども、ロイヤルルームが今ございます。あそこも老朽化が進んでおりまして、新設する部分にロイヤルルームを移しまして、それからロイヤルルーム現在あるところをプレス席というふうな考えもありまして、今そういった中で設計のほうがいろいろちょっと変わっている状況ではありますけれども、席数につきましては先ほど説明させていただきましたプレハブ部分が今回建設しようとする建物に入るということでございます。スタンドのように固定した椅子を置くということではございません。フリースペース状態になりましてそこに必要

に応じて座席をふやすと、席を設けるといふふうな形で考えています。

○議長（武石雅之さん） 田中さん。

○3番（田中満男さん） 支援センターの件で伺います。

私自身も支援センターはよく利用させていただいております。以前は週4回くらいは利用していましたが、最近は回数が少なくなっております。それは6月下旬ごろから7月中旬にかけて二、三回ほど、村外の顔見知りの人と偶然風呂で会って話をいろいろしました。そして今驚きました。

一組の人は村内の方より無料利用券をいただいて毎回利用していると。他の組の人は格安で村内の方から無料利用券を購入して利用していると。これは大きな問題ではないでしょうか。伺います。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） お答えします。

その問題につきましては、私、村政懇談会でいろいろな場所でその話を伺っております。そのとき私がお答えしたのが一つ。

まず一つ、村外の人、何で締め出さないんですかという話でした。それはできません。なぜならば、この施設は国の税金をもらってつくった施設です。村の100%の税金でつくったならばそれは可能です。ただし国から支援していただいた施設である限り、そっちが自由である限りはそれは拒否することはできませんということで申し上げております。

それから、支援センターでその話、村外の人に売っているという話、村長おかしいんじゃないかということもよく質問されたり、叱責を受けております。そのとき申し上げているのは、一旦村民の75歳以上の方に差し上げた回数券については、その所有者の権利はもう差し上げた方がお持ちです。村が回数券については村外の人に売ってはいけませんという、そういうのは困りますというふうな規定があれば別ですけれども、一切ありません。自由にどうぞお使いください、皆様が、いただいた方はそれを自由にやって結構ですというふうに申し上げます。それは、そういうやること自身が弥彦の支援センターをちゃんとやっていることであって、何ら問題はないというふうに私は理解しております。

したがって、ただ来年以降について、これは村長選挙あって私どうこう言えませんけれども、今の制度は完全であるとは私自身思っておりません。ただし、今の制度にかわる75歳以上のお年寄りに対してどういうふうなことをやっていいのか。じゃメロンでいいのか、メロンはあれ全部役場の職員が全部配っています。それでいいのかね。弥彦村のメロンであればまだしも、どこかから買って来たメロン配ってそれでいいのか。食べない人ももちろんいます。

そのとき、いろいろなことを考えて、財政的にも考えて、これ何回も申し上げますけれども、いろいろなことをやって一番財政的な負担が少なくて、しかも健康増進につながるということで今の回数券がいいんじゃないかということに落ちついていきます。

ただ、やひこ号が村内全部を巡回する訳ではありませんので、行きたいけれども行けないとい

う声ももうたくさん聞いておりますけれども、今年はとりあえず今のやり方でやらせていただいて、次についてはもっといいのがあるか、あるいはもっといいのがないか、改善はやっていくことが必要だというふうには思っています。

○議長（武石雅之さん） 田中さん。

○3番（田中満男さん） 他市では市内以外の方の利用の金額の差はつけております。弥彦村も支援センターのお風呂は湯がきれいで湯量も多いので評判は非常によいと聞いております。村外の方に利用してもらうのはいいことだと思うんですけども、料金差をつけて、他市はやっております、料金差をつけて利用してもらったらどうなのか、伺います。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） それも今後検討して、課題の一つであるというふうには理解しています。

○議長（武石雅之さん） 3回目になります。

○3番（田中満男さん） まだその中で答えてもらっていない部分がありますので。

無料利用券、今の30枚というかそういうふうにならなくなって、巡回バスきらん号、そしてタクシー券の補助利用券の配付を、もらう対象者個人が選択してもらうということについて、まだ回答をいただけていないのでその辺はどうでしょうか。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） 実は内々にそのことも検討しております。どれだけのお金がかかるのかということも全部やっておりますけれども、まだ結論は出ておりません。

○議長（武石雅之さん） 田中さん。

○3番（田中満男さん） 早急に検討して示していただきたいと思います。

以上で私の質問は終わります。

○議長（武石雅之さん） 以上で、田中満男さんの質問を終わります。

◇ 本 多 啓 三 さん

○議長（武石雅之さん） 次に、本多啓三さんの質問を許します。

1番、本多啓三さん。

○1番（本多啓三さん） 通告に従いまして、一般質問をいたします。

平成27年、村長就任早々、彌彦神社ご遷座100年の祝賀に合わせるべく、旧弥彦グランドホテル跡地に3,000万円の村の単独費でおもてなし広場建設を唐突とも受け取れる内容で示されました。

敷地を整備し、芝を張り、テントもどきの建物を建設。野積の浜で塩を精製し、地元のコシヒカリ米でおむすびをつくり、来村された観光客をもてなすというものでありました。これが村長のおっしゃる広場構想の原点ではなかったかと思えます。

しかし、残念ながらこの構想は、テントもどきの建物は降雪で崩壊、塩むすびもいろいろな事情で実施するには至らなかった訳であります。

そして、この広場構想は再三再四の変更を繰り返しながら、時の政権の地方創生という新型交付金を導入し広場構想の竣工となり、去る3月29日、498万5,000円という多額の村費を使い竣工式をしたところであります。

この広場構想は、村長はこれが弥彦観光の拠点として地域の活性化、村の活性化を図ることと再三答弁をしています。活性化とは人・物・金が回り、地域が潤い、そして村が潤うことであります。現状はいかがでしょうか。お伺いいたします。

また、地方創生とは人口減少対策が究極の目的であります。本村の人口減少に変化が出ているのかについてもあわせてお伺いをいたします。

以上です。

○議長（武石雅之さん） 答弁を求めます。

村長。

○村長（小林豊彦さん） 本多啓三議員のご質問にお答えします。

まず、おもてなし広場の現状についてですが、おもてなし広場は観光と農業との一体的振興を図る拠点となることを目的として平成28年度に地方創生加速化交付金をもとに、まずは農産物直売所を整備し、平成29年3月24日にオープンいたしました。

続いて平成29年度に地方創生拠点整備交付金をもとにフードコート棟以下、6つの施設と足湯を含む雁木等を整備し、平成30年3月30日にグランドオープンいたしました。

ありがたいことにその後順調なにぎわいを見せておるとの報告を受けておりますし、彌彦神社からおもてなし広場まで歩く観光客もふえたという声も届いております。

具体的な数値で申し上げますと、去年は農産物直売所さややだけでしたので、さややだけで比較いたします。4月から7月までの4カ月間の入場者数で対前年比159%、売り上げで見ますと137%になります。そのほかの店舗におきましても、おおむね目標値を上回る売り上げ実績との報告を受けております。

彌彦神社への入り込み客数を見ましても、4月から7月までの4カ月間の参拝者数で対前年比111%となっており、こちらも伸びてきております。まさしく、おもてなし広場との相乗効果があったものと考えております。

また、今年の7月3日には弥彦駅前広場、湯のわもオープンし、彌彦神社からおもてなし広場を経由し、そして駅前広場へと続くまち歩きの動線も整いました。

今年の夏は危険な暑さの日が多く、歩く観光客の姿が少ないとの報告を受けていますが、これからはみじのシーズンに向かい、まち歩きを楽しむ観光客がふえるものと期待しているところでございます。

まだ5カ月が経過しただけですので極端に潤う程度の実績はございませんが、数値からも見てとれますようにこういった積み重ねが相乗効果を生み、議員がおっしゃるように人・物・金が回ることによって地域が潤い、そして村全体が潤っていくものと信じております。

次に、地方創生対策で本村の人口減少に変化が出ているのかとのご質問ですが、地方創生関連

の事業が今すぐに人口減少対策と結びつくかどうかの判断は難しいと思われませんが、この5年間の人口動態について分析してみますと、平成25年度末で人口が8,542人、29年度末が8,214人で328人減少しております。出生と死亡を差し引いた自然動態での減少が204人、転入と転出を差し引いた社会動態での減少が124人となっております。

人口減少となってきたのは確かでございますが、社会動態での減少を見ますと、今まで100人近い減少であったものが昨年は64人減でおさまり、この5年間では最小の数値となっております。

今後も弥彦に家を建てて住みたいという方が少しでも多くなるよう、魅力ある村づくりを行いながら、更に子育て支援と教育の充実を図り、子供を産み育てる環境を整備していくことによって、今後自然動態の減少も抑えることができるのではないかと希望しています。

15歳未満の年少人口割合が県内市町村第2位、第1位は聖籠町さんでいらっしゃいますけれども、それから15歳から64歳までの生産年齢人口の村全体の人口に占める割合が県内市町村第4位という弥彦村でございます。その維持を図っていくことも責務と考え、一層の施策の充実を図っていかねばならないと考えているところでございます。

○議長（武石雅之さん） 本多啓三さん。

○1番（本多啓三さん） この人口減少問題、たしか私、3月の一般質問でもちょっと質問させていただきました。その中で、村長答弁の中で30年度新規事業として電子母子手帳のサービス開始ですか、母子手帳の電子化ですね、これ予算計上されておりますからこれはもう承知しておりますが、そのときにあわせて29年度末で行政と民間で弥彦村婚活実行委員会を立ち上げ、30年度はイベントを共同開催するんだというそういうご答弁もいただいておりますが、その内容についてちょっと開示していただけますか。

○議長（武石雅之さん） 福祉保健課長。

○福祉保健課長（三富浩子さん） 今ほどのご質問でございます共同開催ということにつきましては、燕市と一緒に共同開催ということで現在計画をしております。

日程が10月の、すみません、ちょっと手元になくはつきりと申し上げられませんが、10月に予定をしております。バスのツアーになりますが、三条市、燕市を回って彌彦神社を参拝していただき、最後に弥彦村で夕食をとっていただき解散というような形になっております。

○議長（武石雅之さん） 本多さん。

○1番（本多啓三さん） これ3月の一般質問で、私も燕市さんとの広域連携の中に取り組むことはできないかというようなそんな質問もいたしておりますので、これ今年の10月ということですか、それは是非ひとつ進めてほしいなということをお願いしたいと思いますけれども、村長、私も何か勘違いしていたのかちょっとわかりませんが、この地方創生という平成26年9月ですか、第二次安倍政権が発表した。この地方創生という中身がどうもこの実態にマッチしていないんじゃないかというそんな論議がずっと流れてきている経緯があるんですよね。

特にこの人口減少問題、地方創生の究極の目的は人口増対策なんですけれども、そしてこの観

光とのかかわりなんです、というのは、箱根町、神奈川県、これは日本有数の温泉地です。ここは年間2,000万人の観光客がおいでになると。そしてホテルに泊まり、食事をし、温泉に入り、風景を楽しみ、そして帰っていくと。ところが、箱根町が神奈川県の中でも人口減少率、若者の流出率がトップだというんですよね。

それはなぜかという、東京資本のホテルに泊まって、新宿にある小田急さんのロマンスカーで来て、そして箱根町町外の食材を使っているんだと。だから地元にお金が残らないんだと。それで若者の雇用が全然進まないんだと。

ですから、私もそうかなという感じがしたんですけども、観光の活性化が人口減少につながるんじゃないかというような、ちょっと私も今、そんな思いでずっと来ておるんですけども、これは、どこの首長さんもまず観光の活性化ということは当然やってきている訳ですから、私はそれはそれでよしとしたいと思いますけれども、この人口減少対策、村長この次の2期目の大きな命題の一つだという言い方をされておりますけれども、この減少対策、今村長がお考えになっている中でこれはというものをお持ちかどうかわかりませんが、10月に公約を発表するという言い方ですが、この究極の人口減少対策というのはどういうふうにお考えですか。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） 大変非常に難しい問題でございます。

私自身はこの3年半、行政の首長としてトップとして村政運営を担当させていただきました。いろいろなことを考えましたけれども、これは人口減対策は一律なものがありません。その村が、その自治体自治体が自分の一番得意なことを伸ばすしかないというのが私の結論でございます。

弥彦村で一体じゃ何が一番得意な分野なのかといろいろ考えてみます。観光、これは弥彦村じゃなくても新潟県にいっぱいあります。弥彦だけの観光、これは彌彦神社、越後国一宮、これは日本全国でこんなすばらしいものを持っているのは弥彦村しか、ごくわずかしかありませんが、それ以外について、じゃ弥彦というのは何が強みなのか、何が特質なのか、そこから考えないと、単なる観光でもって人口減少食い止めようと、それは今議員ご指摘のように箱根町のような事情も起こるでしょう。逆に島根県の名前忘れましたが、小さな離島がどんどん島外から人が来て人口が逆にふえて全国のモデルケースになっているようなケースもあります。だから、それは自分たちの持てる資源をうまく活用してやるしかないというふうに思っています。

3年半で私自身も一つ何とかこれがあれば弥彦村何とかなるんじゃないかなというのを自分なりに見つけました。それは、具体的には私の次の選挙に臨む公約の中でお示ししていきたいと思っておりますけれども、あくまでも各自治体は人口減対策、各自治体自治体がそれぞれが自分の得意、自分の潜在能力、これを活用するしかないというふうに思っておりますのでご理解いただきたいと思います。

○議長（武石雅之さん） 本多さん。

○1番（本多啓三さん） 確かに1,800の全国市町村のそれぞれの持ち味、特性がある訳ですから、やはりその町の置かれている状況、環境等々を加味した中での人口減少対策、人口増対策、これ

は是非ひとつおやりになってほしいし、是非ともそれをご期待をしておきたいと思います。

それと、あと財政の問題、健全財政ですか、この問題につきまして、これは以前にも一般質問でいろいろやりました。健全財政というのは究極は歳入をふやして歳出を減らすという、そういうことじゃないんでしょうか。それらの観点からすると、ちょっと村長、3年半の予算執行を見ると非常にちょっと危なっかしいものがあるんですよ、私の目から見れば。

例えば、広場構想ですか、これは地方創生でやっている訳ですからあれですが、約3億5,000万円の投資をしている訳ですよ。そのうち国からの補助金が1億5,600万円ほど、そして起債が1億4,750万円、これたしか10年で元利均等で償還すると思うんですけども、そして一般財源が約4,640万円。ということは、半分は借金をしているというそういう状況の中で税収を見ますと、まず平成28年度と29年度決算、先般いただいた訳ですからちょっと対比をしてみますと、29年度が9億4,325万3,000円ということで、対前年で2,300万円ほど減少しているんですよ。

それとあと、これは前にもいろいろと一般質問でもちょっとやりとりさせてもらいましたけれども、人件費の伸び、これはちょっと半端じゃないんですよ。半端じゃないんです。

これは一般会計、競輪会計、給与会計、3つの会計を合わせた弥彦村における総人件費という捉え方をしてほしいんですけども、平成27年度の人件費は6億7,000万円、28年度が6億9,000万円、ここで2,000万円くらいふえているんですよ。そして29年度に至っては、先般の決算書から抜粋しますと7億3,184万3,000円、対前年で4,133万円の増加。ということは、27年度末と比較して6,000万円を超える人件費が伸びているんですよ。これは当然そうでしょう、課をふやして職員をふやしている訳ですから。

村長、私の質問の中でもかねがね、うちの条例が95人だから95人までやるんだという、たしかそんな答弁もいただいておりますけれども、きめ細かな行政サービスをする上でという言い方やっていますが、果たしてそれが現実的にどうなのかという部分はいろいろ議論がありますけれども、今少なくともこれだけの人件費が伸びている、これはもう大変なことだと思うんですよ。

そして物件費、これは私も財政やっていた部分あるから、ふるさと納税とのかかわりがあるので押し上げたという、これは重々承知しておりますが、ただ数字としては27年度の物件費が8億円、28年度の物件費が9億9,200万円、1億9,000万円超がふえている。そして、先般の決算書から見る29年度ではついに物件費が10億円を超えているんです。対前年で3,300万円ふえている。

人件費、物件費というのは一旦膨らんでしまうとなかなか抑えることが難しいというふうに言われている部分の中で、これだけの人件費、物件費、経常的な経費がふえて、本当に一つ財政の健全財政が果たしてできるのかどうかという、そんなふうに私心配があるんですよ。

そして、委託料。委託料については、平成27年度が約3億2,700万円、そして29年度では4,378万円、ここで1億1,000万円委託料ふえているんですよ。

広場構想の中で相当委託出していますから、ある程度わからない訳じゃないんですけども、ただそれだけじゃない部分があると思うんです。これ、委託料というのはちょっと言い方悪いけれども、隠れ人件費的な要素もあるということで、ずっと言われてきている中で、対27年度と比較

してこれだけ伸びている、委託料が伸びている。何か私から見ると本当に大丈夫なのかと。

村長、次の公約の中では財政基盤の確立ということもうたうというふうにおっしゃっているの
で、当然そうだと思いますけれども、結果としては今弥彦村が財政的に回っているのは、ふるさと
と納税とそして今ミッドナイト競輪、たまたま好調なもんですから、それからの繰入金でもって
今きちんと財政が回っているというふうに数値の上では読めるんですけども、でもそんなことは
もちろん長続きする訳じゃないんであって、先ほど村長の答弁の中にありましたように、ふる
さと納税も総務省はああいう言い方している、3割を超えると罰則云々というような言葉まで出
ている訳ですから、今後ふるさと納税については、まずそんなに伸びは期待できんだろうという
見方できる。

そして、競輪についてもミッドナイトについても、今後競争相手がぼんぼん出てくるという中
で、やはり早急に財政基盤というものをきちんと確立しないと、収入を伸ばし財政を抑えるとい
う基本的なお考えについて、3年半やってきた中、それらを踏まえた中で村長の描く財政基盤の
解決というものはどういうものか、今一度ひとつお願いします。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） 議員のご質問の中で人件費と物件費についてのみお答えいたします。

人件費は前から議員がそういう質問をいただきまして私が答えております。

まず第1点、平成27年と28年にふえましたのは弥彦村の人件費、競輪会計で2人賄っていて、
それは会計上おかしいと、一般会計でちゃんと面倒見ろということで戻しました。それにより増
加が、ちょっと数字は忘れましたが2,000万円超えています。

それから、もう一つ申し上げますけれども、大谷村政以下、今の私、平成29年になってみても
村長部局の人員はほとんどふえていないはずです。前から申しましたように、人件費が一番ふえ
たのは保育士さんです。保育士さんが全て。しかも、臨時であっても全部私正職員にしました。
正規にしました。なぜか。

私が一番言っているのは、人口減対策もそうだけれども、一番大事なのお母さんたちにこの
村に住んでもらうことでしょうか。一番大事は保育園を待機児童するなんてこんなばかなこと
があるかという、弥彦村が待機児童なんて全国で恥になるぞと、問題はどこだと。保育士さんが足
りません、だったらふやせ。それだけの話です。

村長部局がふやしているなら、大谷村政のときから比べて大幅にふやしているなら、それは弥
彦村の予算が膨らんでいますので、いろいろな事業やっていますのでやりますけれども、現実問
題において総務課で今1人、あともう一人どこだった、欠員が出ています。それでもみんなやっ
ています。

村長部局は私一切、簡単な増員は認めないとはっきり言っていますから。ただし、福祉関係と
か、それから福祉関係、保育園については、これは全然別次元の話ということでやってきており
ます。その方針については間違っていないというふうに思っています。

もっと前提言うと、行政って何のためにあるのかといたら村民に対する、きめ細かな行政サ

ービスするのは、これは第一義の本義であって、財政健全化のために人件費を削って行政サービスを劣化させるなんて言語道断、本末転倒も甚だしいというのが私の基本的な考え方であります。

それから、物件費については、これ議員わかっていてご質問になっていると思うんですけども、ふえているのはほとんどふるさと納税のおかげです。

平成27年度のふるさと納税、私が村長になる前、年間35万円しかなかったと思います。それが、平成27年6月から始めまして1億6,000万円、それから去年が4億6,000万円ですか。ふえている。当然ふえれば返礼品の金額もありますし、それから複雑ないろいろな経費がかかってまいります。そのための経費増であって、物件費の増であって、別にそれ以外除いたら何もありません。

きのうも初日のとき、代表監査委員からご指摘いただきました。弥彦村の財政、財政運営、予算執行、何の問題もないと聞いております。私自身はありがたいと思いますけれども、私はそれでは満足していません。私たちもこれだけのものを預かっている、不安でしようがない、いつどうなるのか。お願いしたいのは無駄を、もう収入をふやすのここでもう限界だと思えます。

ただ、ふるさと納税は、私今仕掛けを一つ考えておりますので、うまくいけば平成30年度のふるさと納税5億円超えると思えます。これはやってみないとわかりませんが、総務省の通達はどうせ平成31年度から施行されますから、平成30年度やれる訳がない。

あと米がありさえすれば5億円いくかもしれない。最初、私が最終的に弥彦村のふるさと納税5億円まで言うとき、うちの職員誰一人信用しません。村長、何ばか言っているって。はっきりした反応です。見ろ、ちゃんと売れるって。今、4億6,000万円いっています。

これは、今担当の職員が一生懸命考えてくれていますけれども、米さえうまくいけば間違いなくいくし、私の心づもりでは、これわかりませんが、けれども私の可能性があるというのは8億円までいきます。8億円以上無理というのは、これお米がないからです。伊彌彦米がもうないんですよ。去年もそうで、平成29年なかったんですよ。だから4億6,000万円で終わっちゃった。あれば5億円までいってました。

新しいのやりますので、多分8億円までいく。もちろん現物あれば別ですよ、あれば私は10億までいくと思っているんですよ。それほど弥彦のお米というのは物すごいし、阿賀町さんに負けるなんて到底考えられないというのはありまして。それは結果が出ないと言えませんが。結果がもし間違っていてまだここにいたら、あのときおまえ何言ったんだと言っていただけでも結構ですけども、大丈夫だと、ないかと思えますが。

ですから、今のところは歳入歳出全く問題ないですし、全体的に膨らんでいますけれども、これはきちんとした行政サービスをやろうということ、それから保育園のお子さんたちのケアをきちっとやると。これはさっきから申しましたように、発達障害のお子さんたちのケア、これがますますお金がかかってきます。これはしようがない。これはもう村としては全力でやるしかない、支えるしかない、ただ、村長部局の総務課の職員をふやしたとか、農業振興課の職員をふやしたとか、あるいは観光商工課をふやしたとかということではないので、その辺は調べていただければすぐわかります。よくご理解いただきたいと思えます。

○議長（武石雅之さん） 本多さん。

○1番（本多啓三さん） 首長たるもの村民に夢を与えるという、それも大きな責務の一つですから、5億円も8億円も10億円もいいですけども、ちょっと私から見れば荒唐無稽な。

それはともかくとしましても、実は去る7月24日、新潟市で町村議会の議長会、創立70周年の記念の式典がありました。そのときに、前の鳥取の知事で総務大臣もされた片山さんが講師として、片山善博さんですか、おいでになられて地方創生を点検するという内容でのご講演をいただいた訳です。片山さんは開口一番何をおっしゃるかと思ったら、この地方創生は全国の自治体でほぼ失敗していると、こういうことを言うんですよ。

えっというような感じで私は聞いておりましたんですけども、地方創生の究極の目的が人口減少対策という、本来国がやるべきものを地方にこの新型交付金をぶら下げて、そして地方版の総合戦略をつくらせて、やれやれと、そんな行け行けどんどの、それも期間短い中でのやった政策だということで。それで片山さんは失敗したと言っているんですよ。

私もなるほどなということによく聞いておりましたけれども、まず第1点は、総合戦略を練る時間的な余裕がなかったんだと、地方においては。それは、今まで弥彦村の私たちにも示されておりますけれども、弥彦村における地方版の弥彦村総合戦略ですか、でもなかなか無理があった。時間的な部分も含めて無理があったのかなという、中身を拝見いたしますとそういう感じも受けておりますし、そしてやはり先ほども申し上げましたように、本来国がやるべき人口減少対策を地方に押しつけたと。そして、今各自治体間の間でもって人のとり合いがなされているんだという、そんなことが主たる内容での発言をいただきました。

私もなるほどと聞いておりましたけれども、この弥彦村は村長の広場構想、地方創生という新型交付金を使って今やった訳ですよ、もう竣工している。今、半年ぐらいたちましたか、4月からですから。3月24日でしたっけ、竣工しておりますけれども、やはりほとんどが観光協会にお願いしている訳ですから、細かい部分は捕まえていない部分があるだろうから、これは観光協会の総会等でもってまたお聞きしたいと思いますけれども、私もあれほどの3億5,000万円からの投資をしている訳だから、あの施設が本当にうまく回ってほしいというそんな思いでおる一人でございますけれども、特に一番私心配しているのは直売所の件。

さややさんが、村長、あなたの後援会の役員が出資してつくったさややの件、直売所、29年度なかなか厳しい数字だったんだろうというふうには聞いております。これらをもう少しみんなの、例えばJAさんあたりとよく連携したりして、もうちょっとお客様のニーズに合ったような品ぞろえをして、直売所が本当にきちんと動いていただきたいということをちょっと私常に思っているんですけども、村長、直売所の件については村長どういう情報を持っておりますか。

○議長（武石雅之さん） 村長。

○村長（小林豊彦さん） その前に地方創生についてちょっと、片山元大臣がおっしゃっているというのは、一面当たっているところもありますし、一面全く無視している面もあるというふうに私は感じます。

弥彦村にとってみて地方創生のあの平成26年度から始まった制度がなかったら、私はどっちかという立ち往生していたかもしれません。というのは、グランドホテルの跡地、弥彦村は5,000万円で購入しましたが、皆さんご承知のように平成27年度、あそこ塀がずっと囲ってあって、中全くわからない。見ると残土が山盛りになってたというだけであってどうしようもない。

平成28年度にはご遷座100年があって全国からいろいろな参拝客がお見えになる。それで、あれは何とかしなきゃなど。あんなみっともないことやっているから、観光地として弥彦村として恥ずかしいということで、3,000万円の予算を、あれだけです、私村長になった年をお願いしたのはあのお金だけ、3,000万円を無理してつけていただいていたきれいにしました。

その後、あそこを何とかしたいと思ったけれども、金がないんですよ、実際。これも前に議会で申し上げたと思いますけれども、県の補助金、国の補助金、全部、当時県から来ていた小林保夫総務課長を中心に全部検討してもらいました。最終的に一番優位な補助金が地方創生の補助金だったんです。

そのためには、国から一斉に全国、全自治体に対して総合計画をつくれという指示が出ました。そのかわり3,000万円の総合計画をつくるに当たっての経費を負担しようということで、弥彦は最初コンサルティングにやりました。3,000万円ですよ。コンサルティングやって私は零点だと、評価できないこんなのはと言って突き返しました。なぜか。数字が変わっているだけで村の名前変えればどこでも通用するだろう、そういう内容だったんです。

もう一回、職員の皆さんと合宿しながらでもがくがくやってようやくつくって、本当に時間がありませんでした。3カ月ぐらいでやったんじゃないかなってしょうね、数字についてはこれどうしようもないのでコンサルに任せましたけれども、それ以外については自分たちでやろうということやって、それでお金をもらって。

今、議員から言われましたけれども、全額負担なんてなりっこないので、前の大谷村政がおやりになったように民間を使えばそれはいいんですけども、あの民間の使い方は前にも申し上げたことで、私は猛烈に疑問があるというふうに思っています。結果的にやらなくてよかったというふうにも思っています。地方創生については、弥彦村にとって非常にありがたかった。

今年の初め、総務省からこれも申し上げたと思いますけれども、霞が関の中央官庁の課長補佐クラス、将来みんな偉くなる人たち、局長、次官になる人も出るでしょう。その人たち36人を弥彦に研修に行かせたいと。課長補佐クラスが来るのはもう前代未聞なんです。何ででしょうかと聞いたら、弥彦村は地方創生の中でいろいろな事業をやっているの、非常によくやっていると評価があるからとにかく見させてくれということで。

私はこんな名誉なことはないので了解しましたけれども、ただその後にサイババが出たものですから、サイババが出て村が大混乱のときに来ていただく訳にまいたらないので、私のほうから申し訳ありませんけれどもこういう事態なのでご辞退させていただきますということでご辞退させていただきました。

ただ、4月、5月、終わったので、ほかですからもう一回総務省のところに連絡して、終わったので来ていただけませんかと言ったら、もう決まっていますからだめですと言われまして、次のときにまたお願いしますと申しあげましたけれども、私としてはまだ具体的な人口増にはつながっておりませんけれども、人口増につながる評価が既に出始めているというふうに思っています。あれは本当にありがたかった。

使いようによってはいいし、普通の交付税と同じようにやるんだったら全く無意味かもしれません。それは難しい、物すごく難しいと思いますけれども、弥彦は職員の協力で何とかやってきたと思います。

さややについては、私が仕入れて、いただいている情報の中では、数字の中で、私一応所有者ですから全部聞いて承知しています。売上げが一番伸びているのはさややです、間違いなく。これはもうはっきりしています。びっくりするほど伸びています。

今のところ問題はないし、それ以外についても先ほど議会で答弁させていただきましたように、損益分岐点をはるかに超えて皆さんやっておられた。このまま秋のもみじ、それから菊まつり等を含めて、ただ慢心したらマンネリ化したら一遍にだめになってしまいますので、その辺をどうかしていくというのは、これは観光協会の腕でありますし責任でありますので、是非マンネリ化しないようにいろいろな取り組みをやっていただきたいというふうに思っています。

○議長（武石雅之さん） 本多さん。

○1番（本多啓三さん） 広場構想、もうここまで来ているんだから是非ひとつうまく回ってほしいし、そういうふうに願わざるを得ませんけれども、先ほど村長、板倉議員の質問にも人口の問題、財政基盤の問題、これが次の選挙の大きな公約ですよという、それもおっしゃっている。

今までの弥彦村の財政というのは、ふるさと納税とそして今ミッドナイト競輪がうまく回っているという中でやってきているというそういう実態がある訳だから、今度それにかわるべく、本当はやはり税収をまずは伸ばすという、税収を上げるという、そして上下水道の使用料を上げるという、これはやはり一つの財政の基本だと思うんですよ。財政基盤を確立するという基本だと思いますので、それらをひとつ十分に練っていただいて、そしてもう次の村長選挙の日程も決まっておりますので、やはりそこは堂々と政策論争の中でひとつフェアな選挙戦をやってほしいなということを申し上げて終わります。

○議長（武石雅之さん） 福祉保健課長。

○福祉保健課長（三富浩子さん） すみません。先ほどせっかく婚活のご質問をいただきましたのに、私手元に資料がございませんで、日にちのほうははっきり申し上げられませんでした。

日にちのほうは10月21日の日曜日になります。10時からで、燕三条駅集合になります。

詳しくはホームページにも載っておりますので、皆さんごらんいただいて、是非ご参加をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○議長（武石雅之さん） 以上で本多さんの質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（武石雅之さん） 以上をもちまして本日の議事日程は全て終了いたしました。

次回は、9月10日午前10時から再開いたします。

本日はこれにて散会いたします。

どうもご苦労さまでした。

(午後 0時43分)